

平泉懷古（大槻磐溪）

三世の豪華帝京に擬す

朱樓碧殿雲に接して長し

只今唯東山の月のみ有って

来り照らす当年の金色堂

三世豪華擬帝京 朱樓碧殿接雲長
只今唯有東山月 來照當年金色堂

解説 藤原三代の豪華も一場の夢となり、当年の唯一の遺物金色堂を月が照らすのみという感慨を述べたもの。

語釈 ※平泉Ⅱ岩手県平泉町。北上川中流にある史跡。平安時代末期、

奥州藤原氏が栄えた時代の寺院や遺跡群が多く残っている。

※豪華Ⅱ非常に華やかなこと。※帝京Ⅱ京都。※擬Ⅱたとえる。

※朱樓Ⅱ朱塗りの楼。※碧殿Ⅱ碧い建物。※東山Ⅱ東の山。

※金色堂Ⅱ藤原清衡がに建立したもの。堂は内外共に総金箔貼りで、扉、壁、軒から縁や床面に至るまで漆塗りの上に金箔を貼って仕上げられている。

通釈 藤原氏三代の繁栄は豪華さを極めた。当時、平泉を天皇の都、京都になぞらえ、雲に届くばかりの朱塗りの楼台、碧色の殿堂が長ながと立ち並んでいたものであったが、今はただ、そうした豪華も空しい夢となり、昔と変わらぬものは東山に出る月だけで、毎夜来たって当時からの唯一の遺物たる金色堂を照らしているのである。